

平成26年度

”十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート”活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

1. ルート運営活動計画の進捗状況

| | |
|-------------------------------|------------------|
| ルート名称: 十勝シーニックバイウェイ十勝平野・山麓ルート | 報告年月日: 2015/3/31 |
|-------------------------------|------------------|

| | ルート(エリア)運営活動計画方針 | ルート(エリア)運営活動計画活動内容 | H26 | | | | | 総括 |
|-------------------|------------------------|-------------------------|---------------------------------------|--|------------------------------|-------------------------|----------|--|
| | | | 活動名 | 主催 | 活動実施日 | 参加人数 | 活動状況資料番号 | |
| 景観 | 地域の景観資源を守ろう、活かそう | 歴史的な景観資源を発掘し継承する | — | — | — | — | | 花壇整備などを通して、地域間の連携基盤づくりを継続的に進めている。また、シーニックカフェの充実をはかることによりルート内の景観、情報等を情報発信する場が増えた。広域連携として実施している「人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト」は、植樹と合わせて維持管理を行うなど美しく新しい景観を創出するため継続的に取り組んでいく。 |
| | | 十勝の山麓・平野に広がる美しい田園景観を活かす | シーニックカフェ | 十勝平野・山麓ルート(観光振興分科会) | 平成26年4月～平成27年3月(カフェにより期間異なる) | 主催者: 20名程度 カフェ: 11箇所 | | |
| | 特色溢れる景観を創出しよう | 景観の見せ場を創る | イエローリボンプロジェクトへの協力 | とかちイエローリボンプロジェクト実行委員会 | 平成26年6月～9月 | 100名程度 | | |
| | | 沿道を花と緑で彩る | 北海道ガーデン街道との連携事業: 人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト | シーニックバイウェイ&ガーデン街道 美しい北海道景観を育てる会 | 平成26年4月～平成27年3月 | 主催者: 60名程度 | | |
| | | | 花植え・清掃活動(各町の道路沿道、駅前、公園など) | 清水町商工会女性部、鹿追町商工会、上士幌町商工会女性部、足寄町地域部会、士幌町商工会 | | 平成26年4月～6月 | 300名程度 | |
| | 沿道景観を取り巻く環境向上に向けた取り組み | 道路工作物の景観を整える | 景観資源と地域資源を守ろう・活かそう ～不用看板の再生～ | 十勝平野・山麓ルート(景観形成分科会) | 平成27年2月(足寄町地域部会で実施) | 主催者: 20名程度 | | |
| 手入れの行き届いた沿道景観をつくる | | | | | | | | |
| 地域 | 地域が一体となった情報発信の検討 | 広域的な地域情報発信の連携 | シーニックカフェスタンプラリー | 十勝平野・山麓ルート(観光振興分科会) | 平成26年5月10日～平成26年10月31日 | 応募52人(カフェ11箇所) | A - 1 | シーニックカフェの充実がはかられたことから、連携して情報発信を行うため、ルート独自のシーニックカフェスタンプラリーを開催したほか、十勝エリア内や大雪エリアとの広域連携を進めるなど、情報発信に努めた。今後も情報発信を継続的に行うことが重要と考える。 |
| | | | 食と宿泊施設マップの作成 | 十勝平野・山麓ルート(観光振興分科会) | 製作: 平成26年3月～平成27年5月 | 主催20人 | | |
| | | 大雪山ぐるっとシーニック観光推進事業 | 大雪ぐるっと広域連携会議 | 平成26年4月～平成27年3月 | 主催20人 | A - 2 | | |
| | 沿道での情報発信による案内誘導の仕組みづくり | — | — | — | — | | | |
| | 地域のシーニック運営への意識を高めよう | 持続的なルート運営の為の運営体制の検討 | — | — | — | — | | |
| 地域にシーニックを浸透させよう | | — | — | — | — | | | |

| | | | | | | | | |
|----|-------------------|---------------|---|----------|---|--------|--|--|
| 観光 | 地域の農・食・産品を繋げて活かそう | 地場産品・食をPRする | — | — | — | — | | |
| | | 農業を活かす | — | — | — | — | | |
| | | 個店を活かす仕組みづくり | — | — | — | — | | |
| | 提案型観光地づくりの検討 | 野外活動型滞在観光地づくり | 「馬の道」の活用 ・May Flowae Cop 2014 エンデュランス馬術大会 ・2014春季北海道エン デュランス馬術大会 ・2014秋季北海道エン デュランス馬術大会 | 各大会実行委員会 | 平成26年5月31日・6月1 日 平成26年6月28日・29日 平成26年9月20日・22日 | 各30名程度 | | 「馬の道」の活用について は、ルートの独自性にお いて優位な取り組みであ る。今後も各種大会に利 用してもらえるよう継続 的に案内看板・休憩箇所の 設定などの検討を行って いきたい。 |
| | | 健康保養型滞在観光地づくり | — | — | — | — | | |
| | 地域資源の発見と共有に取り組もう | 地域資源の発見と共有 | — | — | — | — | | |

十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート

TOKACHI Scenic Byway TOKACHIHEIYA・SANROKU route

活動名：シーニックカフェスタンプラリー

- 【概要】 訪れた人に楽しんでいただきながらルート内のシーニックカフェを巡っていただき、十勝平野・山麓ルートの魅力を知っていただくとともに各シーニックカフェの利用促進を図ることを目的に今年度初めてルート独自で実施した。情報発信を継続的に行うことが重要と考えることから今後も継続的に実施していく。
- 【実施内容】 参加施設にスタンプラリーパンフレット及びスタンプを設置し、参加者はラリー参加施設の2カ所以上のスタンプの押印で応募が可能。スタンプ押印数により景品が抽選で当たる。
- 【開催期間】 平成26年5月10日～平成26年10月31日
- 【主催】 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート
- 【参加施設】 十勝平野・山麓ルート内シーニックカフェ11カ所
- 【応募人数】 52名（十勝管内：17名、十勝管外：25名、北海道外：10名）

サイズ：見開きA4（観音折り）

（表）

（裏）

| シーニックカフェ | 市町村 |
|----------------|------|
| ヨークシャーファーム | 新得町 |
| 土幌高原ヌブカの里 | 土幌町 |
| 三国峠茶屋 | 上士幌町 |
| ナイタイ高原牧場レストハウス | 上士幌町 |
| カントリーパパ | 鹿追町 |
| 美曼亭 | 清水町 |
| カフェダイニング サルビア | 清水町 |
| ドライブイン・民宿クマゲラ | 足寄町 |
| レストランあしよる | 足寄町 |
| ソフトクリーム工房 | 陸別町 |
| tomonos | 陸別町 |

十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート

TOKACHI Scenic Byway TOKACHIHEIYA・SANROKU route

活動名：大雪山ぐるっと観光推進事業

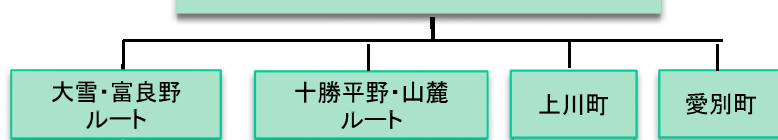
【概要】北海道の屋根として認知度の高い「大雪山」を中心として広域の観光ブランドを創出し、周遊約350kmにおよぶ大雪山周遊観光を提案することで集客を図り大雪山周辺の地域活性化につなげていく。昨年度に続き、地域のPRを行うため、ホテルオークラ札幌と連携し、ホテル内のレストランにて地域食材を活用した特別メニューを提供する『大雪ぐるっとグルメフェア』を開催した。また、今年度は大雪山の景観や食などの魅力を十分に体感できる2泊3日のモニターツアーを実施し、旅行商品化に向けて参加者にアンケートを実施したところ、高い評価を得ることができた。次年度も旅行会社との連携を進めながら商品化に向けての検討を継続的に行っていく。

【日時】平成26年4～平成27年3月

【場所】大雪・富良野ルート、十勝平野・山麓ルート、上川町及び愛別町のエリア内

【主催】大雪山ぐるっと広域連携会議

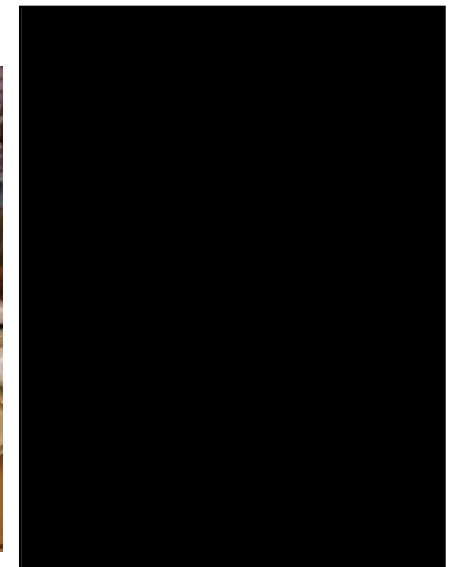
【体制】 会長 加藤祐一（大雪・富良野ルート代表）



【エリア】



【大雪ぐるっとグルメフェア】



4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

| | | |
|-------------------------------|-------------|----------------|
| ルート名称:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート | 報告者:帯広開発建設部 | 報告年月:2015/3/31 |
|-------------------------------|-------------|----------------|

| | ルート(エリア)運営活動計画方針 | 平成26年度の活動内容 | 活動実施日 | 実施機関 | 成果及び課題 | 総括 | 活動No |
|----|--|----------------------|-----------------|-----------------------|--|--|------|
| 景観 | 五感と感動で楽しむ場所を提供するため、美しい景観の発掘と、景観阻害要因となる看板の撤去等の整備、雄大な景観デッキの整備、年間を通して豊かな時間を過ごすカフェの整備を進める。また、十勝シーニックバイウェイ3ルートが連携し、巡る楽しみを創出する。 | とちちイエローリボンプロジェクト | 平成26年5月～9月 | 帯広開発建設部 | ひまわり植栽に向けて実施箇所検討及び種植えに積極的に参加した。地域の景観向上のため今後も継続して取り組めるよう検討を行う必要がある。 | 行政機関とルートが連携した取組を行うことにより効果がよりいっそう高くなっている。今後も行政とルートとの連携を強化しPRのため広域での取組を行っていく必要がある。 | |
| | | 人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト | 平成26年4月～平成27年3月 | 自治体 商工会 帯広開発建設部 | 植樹における植樹箇所及び道路占用許可申請の調整等を行った。また、植樹希望箇所は国道以外の場合もあることから、関係自治体等と連携して進めていく必要がある。 | | |
| 観光 | 道外、国外に対して、観光・食・アクティビティ・環境などの情報を、自信を持って発信できる地域づくりを行う。そのために、ホスピタリティを向上させ、組織・団体の活動を活性化させるなど、地域間競争に打ち勝つための情報共有や地域住民との連携強化による人づくり・街づくりを推進する。さらに、それらを生かした十勝型産業の開発を目指す。 | 十勝シーニックバイウェイPR活動 | 平成26年7月～10月 | 帯広開発建設部 | 帯広空港ターミナルビル株式会社の協力を得て、十勝シーニックバイウェイの紹介、説明などのPRパネルの展示を行った。空港での開催であるため、道外からの観光客が多く、十勝の魅力を発信する機会となった。また、今年度は帯広河川事務所札内川ダム管理支所においてもパネルの展示を行い十勝SBWの周知を行った。今後もイベント等でのPR活動を積極的に行っていきたい。 | | |